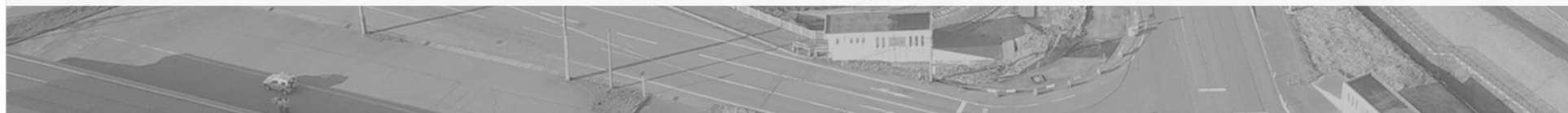




# 「道の駅あらい」リニューアル基本計画 (概要版)



令和8年3月



「道の駅あらい」は、本市の玄関口として大きな可能性を有しており、その機能強化と周辺との連携を図りながら、人と人、地域と地域がつながる新たな価値創出の拠点として再構築するため、本計画を策定しました。

## 【1. 持続可能な地域循環システムの構築】

「道の駅あらい」のリニューアルは、施設の整備だけでなく、まち全体の活性化につながる取り組みです。観光の魅力向上とあわせて、収益を公共サービスや人材育成に活かし、地域が持続的に発展する拠点を目指します。

## 【2. 点と面にするエリア設計の検討】

道の駅だけでなく、地域を一体的につなぎ、回遊しやすい環境を整えます。これにより滞在の魅力を高め、地域の魅力発信と経済循環を生み出す拠点を目指します。

## 【3. 地域商業のエコシステム(共生圏)の構築】

新しい道の駅と周辺の事業者が競い合うのではなく、それぞれの強みを活かして連携します。役割分担を明確にし、利用者を相互に行き来させることで、個々の収益向上とエリア全体の魅力向上を目指します。

「これなら協力できる」、「こんなことを道の駅でやってみたい」

皆さんから寄せられるその声こそが、新しい拠点を創る原動力です。

対話から始まる「道の駅」づくり。このまちの誇りとなる新しい風景を、共に育てていきましょう。



令和8（2026）年3月 妙高市長

城戸陽二

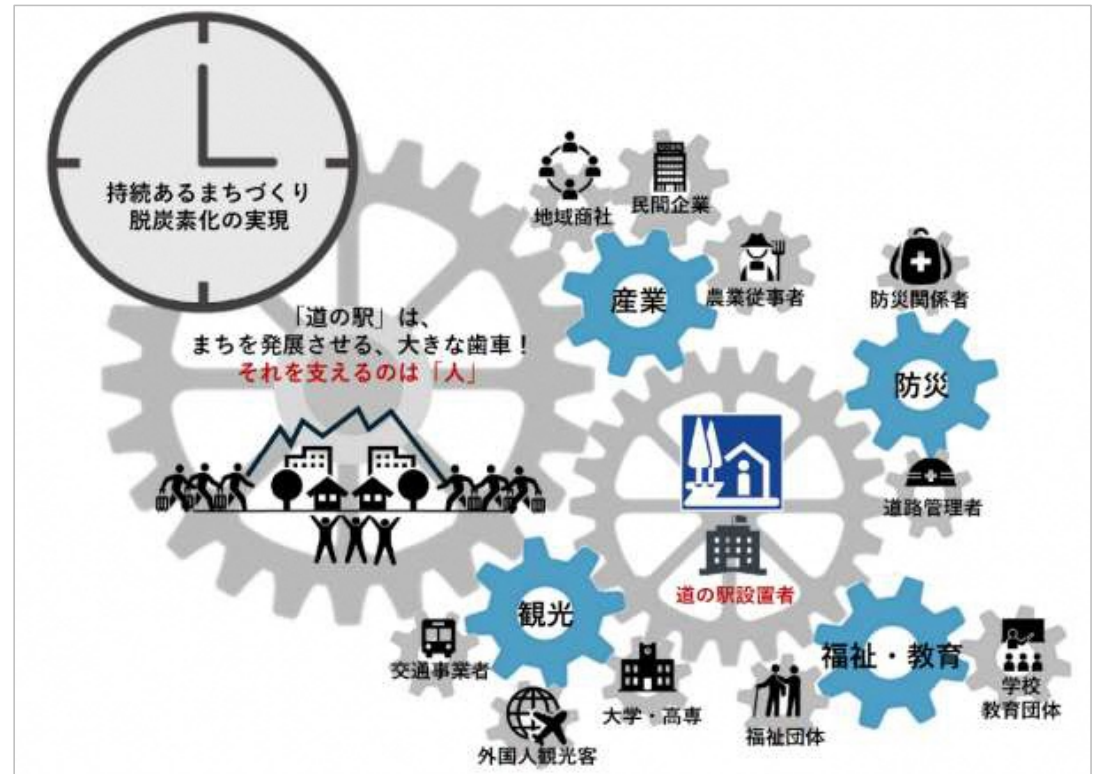
## 1. 「道の駅あらい」リニューアルの背景と目的

### ■現状の課題

- ・施設の老朽化 : 開業から25年が経過
- ・機能不足 : 防災拠点化、子育て支援、地域産業連携の強化が必要
- ・東西エリアの一体化 : 隣接施設や、新井PA間の回遊性向上が必要

### ■リニューアルの目的

単なる修繕にとどまらず、「道の駅」を多世代が集い、交流する拠点として活用し、将来を見据えた持続可能なまちづくりの牽引役となるための取り組みを実施します。



まちづくりにおける「道の駅」位置づけ

妙高市が抱える課題を「道の駅あらい」のリニューアルを通じて、  
“まちぐるみで挑戦”

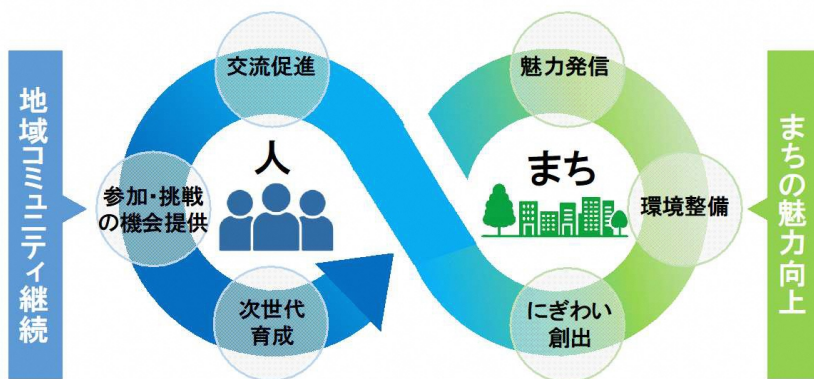


## 2. 「道の駅あらい」リニューアル整備コンセプト

### ＜再整備によってめざすもの＞

「道の駅あらい」のリニューアルでは、地域全体の魅力を高めるために、「まち」と「道の駅」が共有するコンセプトとして、『みんなのチカラ』と『まちの魅力』の好循環の実現を目指します。

### “みんなのチカラ”と“まちの魅力”の好循環



### 地域と共に利益を最大化し、収益・元気を地域に還元する循環装置

「道の駅あらい」の役割は、「地域と共に生み出す利益を最大化し、得られる収益や元気を地域に還元する循環装置」となること。そのため、「人をつなぐ(仲介)」、「地域をつなぐ(ゲートウェイ)」、「安全・安心をつなぐ(防災)」ための取り組みを実施していきます。

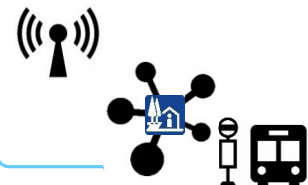
#### 人をつなぐ(仲介)

まちの将来像実現や関係人口の創出・拡大を促進するため、「道の駅あらい」での取り組みを通して、さまざまな人や組織の連携を創出・充実



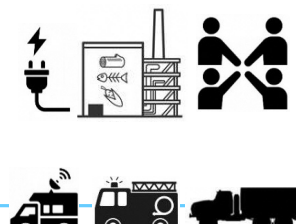
#### 地域をつなぐ(ゲートウェイ)

周辺地域への回遊・滞在型観光を誘導するため、情報提供機能の強化と地域住民の利用を見据えた2次交通機能の強化



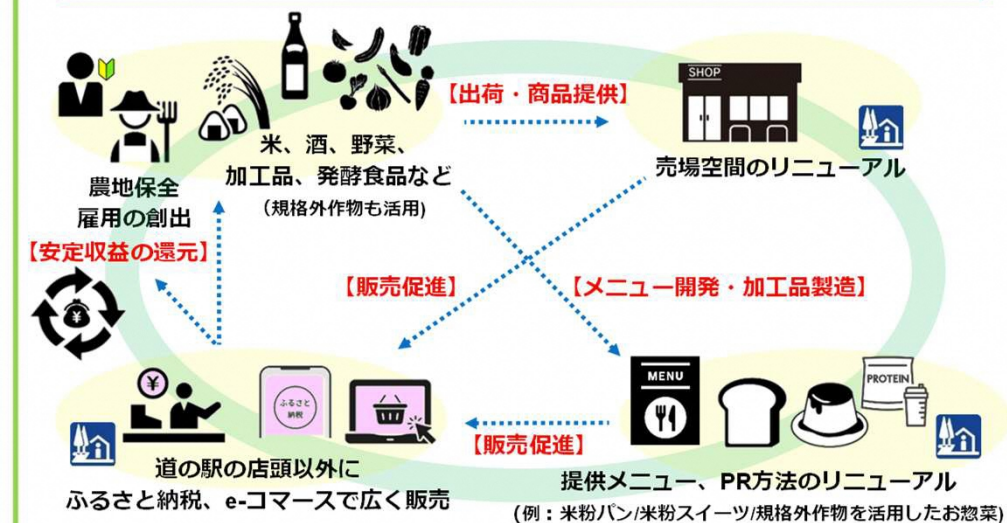
#### 安全・安心をつなぐ(防災)

「防災道の駅」として、災害時においても、確実に地域や避難者に貢献できる、広域支援に必要な設備・体制を強化

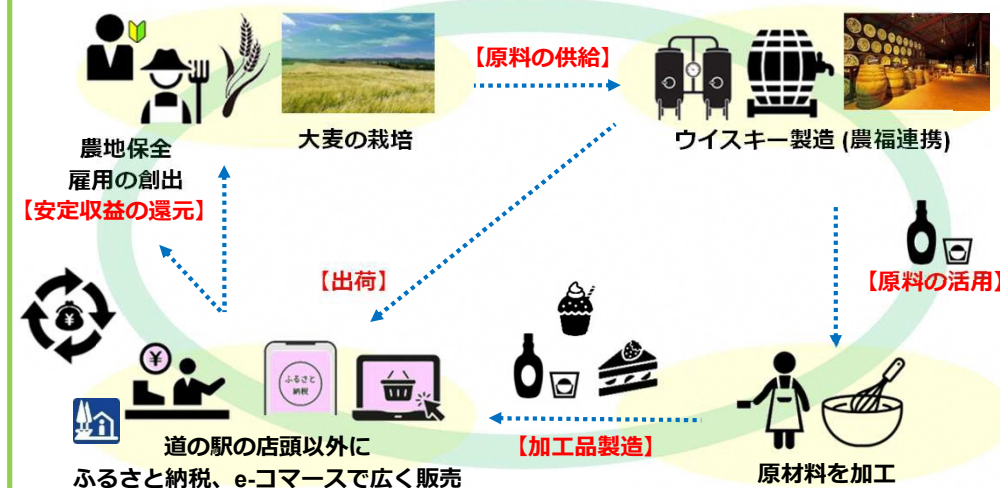


## 3. 「道の駅あらい」リニューアルによる地域循環イメージ

### 既往の地元農産物の消費・6次産業化の推進 × 地域と共に“稼ぐ”仕組みづくり



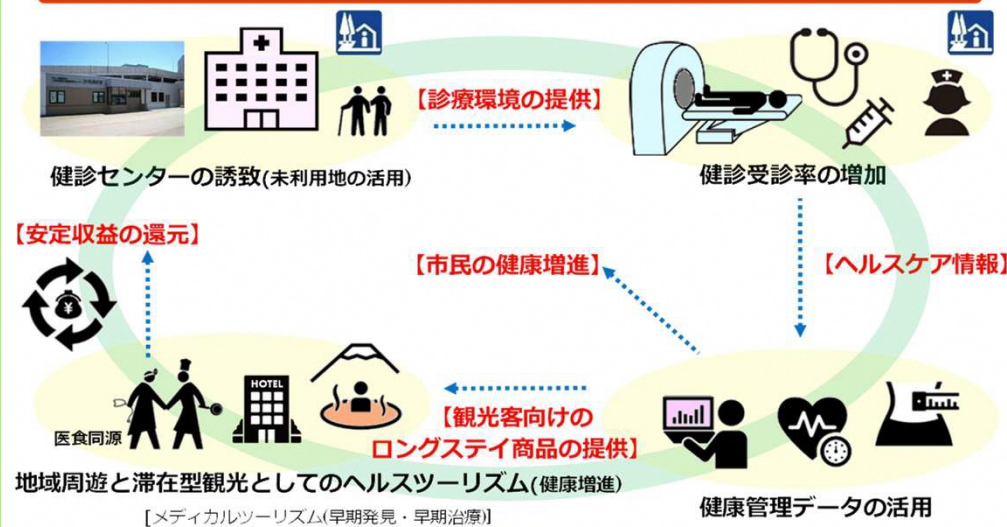
### 脱炭素社会の実現 × 地域一体での新たな地元産品の開発 × “農福連携”



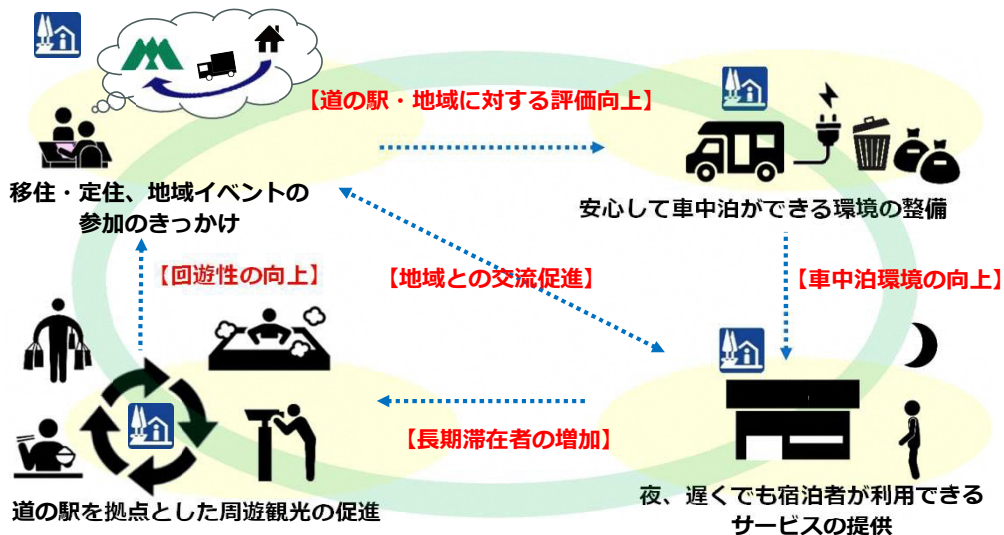
## 地域一体での観光客受入環境の充実 × 移住・定住促進



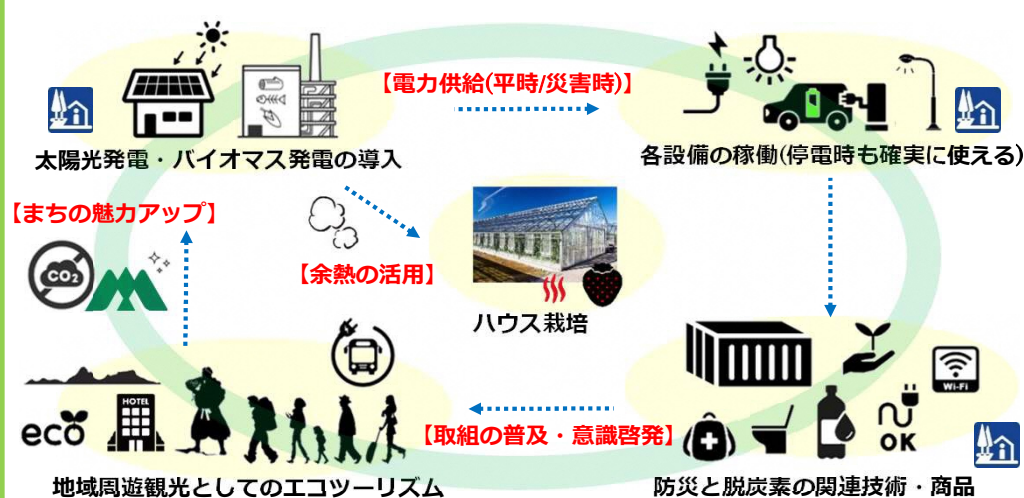
## 市民の健康づくり × 地域と共に“稼ぐ”仕組みづくり



## 地域一体での観光客受入環境の充実 × 安心して車中泊ができる環境の整備



## 災害時の周辺住民・避難者の安全確保 × 地域一体での脱炭素社会の実現



## 4. 「道の駅あらい」リニューアル施設内容

道の駅「あらい」のリニューアルにおける導入機能及び、その機能イメージについて、以下に示します。

なお、取り組みの詳細は、関係者との調整に伴い、変更する場合があります。

休憩スペース	トイレ・子育て応援施設	情報提供・相談コーナー	地域特産品 販売施設
<p>妙高の自然豊かな眺望や、イベント風景等を楽しむことができるよう、<b>屋内外に、ゆとりある休憩スペース</b>の確保を検討します。</p> 	<p>施設内は、採光等により明るさを確保し、<b>清潔感のある空間</b>となるよう検討します。</p> 	<p>まちの玄関口としての魅力発信や周辺地域の周遊促進を目的に<b>総合インフォメーション「コンシェルジュ ミヨウコーさん」</b>の設置を検討します。</p> 	<p>店舗は、<b>バリアフリー化を促進し、レイアウト変更にも柔軟に対応できる空間</b>となるよう検討します。</p> 
飲食施設	地域特産品 体験施設	災害時初動対応スペース (平時:スポーツ施設)	多目的広場 (屋内子ども遊び場:西側)
<p>イートインとテイクアウトを組み合わせた店舗構成により、<b>利用者の多様な飲食スタイルに対応</b>できる環境の整備を検討します。</p> 	<p>商品の魅力を実感できるよう、<b>試飲コーナーやお試しブレンド体験</b>など、楽しみながら商品に触れられる体験スペースの設置を検討します。</p> 	<p>地域に<b>新たなアクティビティの場</b>を提供するため、ボルダリング施設や3×3バスケットボールコート<sup>※</sup>の整備を検討します。</p> 	<p>冬季や悪天候でも子どもたちが遊べるよう、屋内にインクルーシブ遊具を設置し、市内の<b>子育て環境の充実</b>に貢献するための整備を検討します。</p> 

イベント広場	健診施設(民間)	遊歩道(屋根あり)	ハウス栽培施設(民間)
<p>日除け、雨除けとして機能する大型屋根を設置し、天候に左右されず快適に利用できる環境の整備を検討します。</p> 	<p>健診施設の健診環境の充実による受診率向上を図るため、既存の健診施設を「道の駅」の近くに誘致することを検討します。</p> 	<p>「道の駅」西側エリアの南北方向の回遊性や、新井PAから「道の駅」へのアクセス性を向上するため、屋根付きの遊歩道の整備を検討します。</p> 	<p>木質バイオマス発電からの排熱を利用したハウス栽培施設を誘致し、オーガニック野菜等を栽培する等、新たな地域産業としての展開を検討します。</p> 
災害時初動対応スペース (平時:スポーツ・RV)	多目的会議室	防災施設整備用地	バイオマス発電施設(民間)
<p>災害時には、災害対策車両の活動エリアとして緊急車両の乗り入れ可能な場所として整備するとともに、防災機能を強化する施設の導入を検討します。</p> 	<p>災害発生時には、対策本部や物資の集積スペース、傷病者など避難者向けのスペースとして活用できる、状況に応じ活用できる空間の整備を検討します。</p> 	<p>災害時における防災機能の強化を図るため、広域支援の拠点としても活用できる防災施設用地の確保や、施設整備の協議を進めます。</p> 	<p>災害時の電力確保を図るため、妙高市の豊富な森林を活用した木質バイオマス発電施設の誘致を検討します。</p> 

## 5. 「道の駅あらい」リニューアル施設規模及び施設配置

「道の駅あらい」のリニューアル後の施設規模及び施設配置を、以下に示します。  
 なお、施設規模・面積構成の詳細は、道の駅関係者からの意見や、設計の段階で変更する場合があります。

### <施設規模>

	施設名称	施設規模 (m)	
		改修前	改修後
西側 (道の駅)	休憩スペース	(※)	60
	トイレ・子育て応援施設	60	130
	情報提供・相談コーナー	163 (※)	40
	地域特産品 販売施設	73	670
	飲食施設 (休憩スペースとしても利用可能)	135	670
	地域特産品 体験施設	—	170
	災害時初動対応スペース (平時：スポーツ施設)	—	280
	多目的広場 (屋内子ども遊び場)	—	220
	多目的会議室	151	170
	イベント広場	—	400
	<b>小計</b>	<b>582</b>	<b>2,810</b>
(その他) 西側	健診施設 (民間整備)	—	1,410
	遊歩道 (屋根あり)	既存改修 (L=300m)	
	<b>小計</b>	<b>—</b>	<b>1,410</b>
(その他) 東側	ハウス栽培施設 (民間整備)	—	400
	災害時初動対応スペース (平時：スポーツ・RV)	—	6,000
	調整池 (ドッグラン)	—	2,200
	防災施設整備用地	—	8,400
	バイオマス発電施設 (民間整備)	—	3,300
<b>小計</b>	<b>—</b>	<b>20,300</b>	
<b>総計</b>		<b>582</b>	<b>24,520</b>

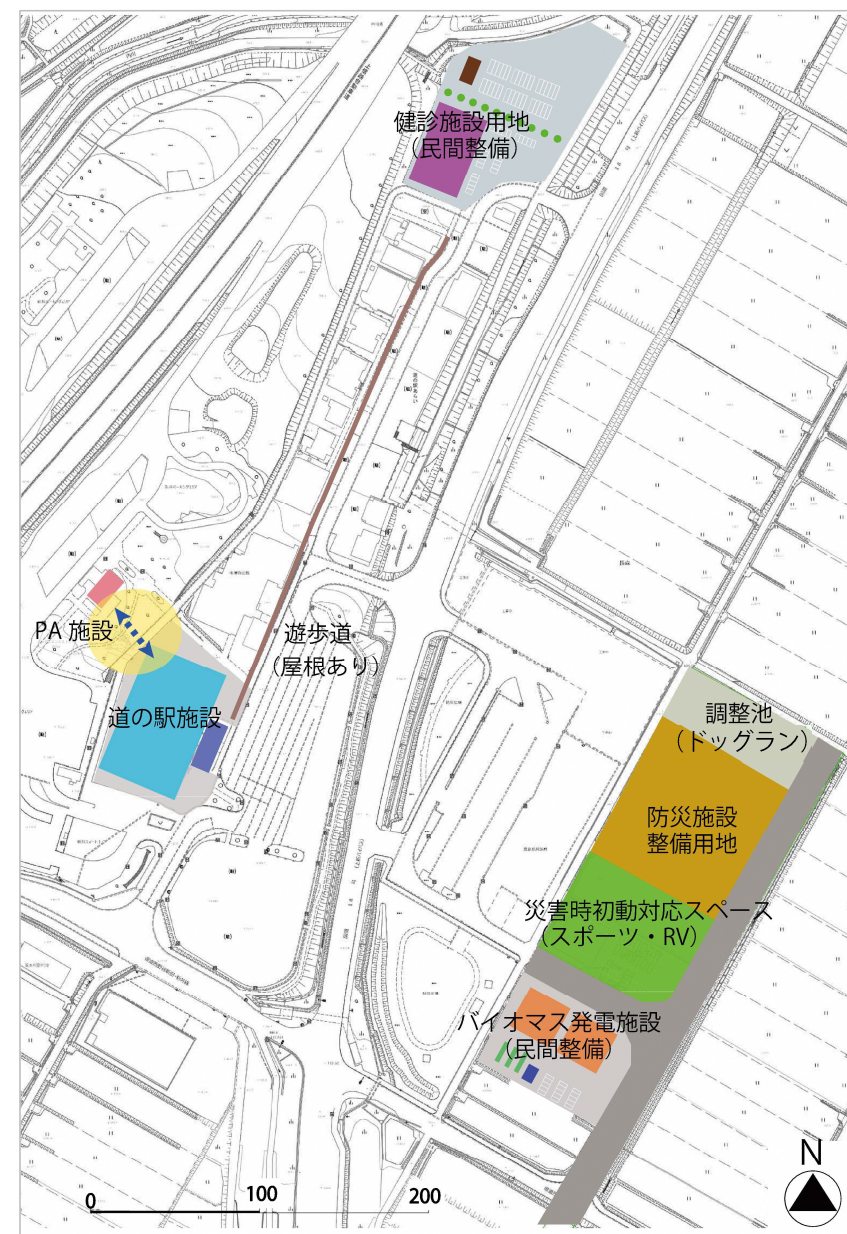
※改修前は、休憩スペースと情報提供施設が一体

## 6. 「道の駅あらい」リニューアルによる整備目標

「道の駅あらい」のリニューアルによる整備目標を、以下に示します。

指標	現状(R6)	目標(R11)	増加数
年間来訪者数	286万人	440万人	+154万人
年間売上高	21.5億円	44億円	+22.5億円
平均客単価	750円	1,000円	+250円

### <施設配置>



道の駅リニューアルによる施設整備配置(第1フェーズ実施分)

## 7. 「道の駅あらい」リニューアル施設 管理運営の考え方

### 1. 官民連携による魅力的な道の駅づくり

民間の知恵や活力を取り入れることで、より魅力的で持続可能な「道の駅」づくりを進めていきます。

### 2. まちぐるみで進める道の駅運営

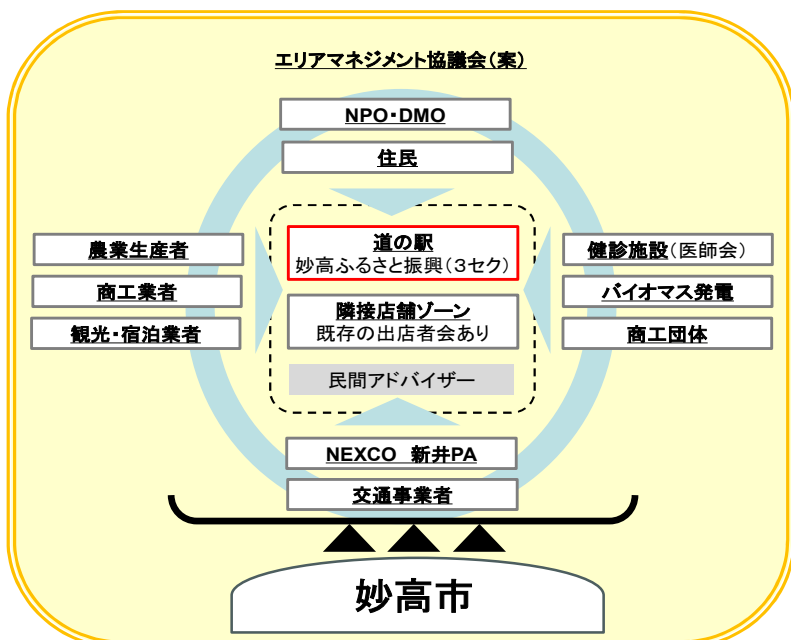
地域と深く関わりながら、「まちぐるみ」での運営体制に努め、地域に根差した、長く愛される「道の駅」をめざします。

### 3. 持続可能な運営体制の構築

リニューアル後も、行政と民間が共同で運営する「第3セクター」による指定管理者制度を継続していきます。

### 4. 関係機関との連携強化

既存の指定管理による運営体制を継続しつつ、道の駅の周辺地域を広く巻き込んだ形でエリアマネジメントを推進する体制を構築し、両輪で全体の魅力向上に取り組みます。



「道の駅」管理運営体制(案):リニューアル後

## 8. 「道の駅あらい」リニューアル 概算事業費

**総事業費(概算)**  
**=設計:2.5億円+工事:21億円(税込)×物価上昇率1.1=約25.6億円(税込)**  
 ※令和10年度を建設実施年とした場合、昨今の物価上昇を考慮

## 9. 「道の駅あらい」リニューアル 事業スケジュール

「道の駅あらい」のリニューアルにあたっての事業スケジュールを、以下に示します。  
 本事業は、施設の規模や機能に応じて状況の変化や地域のニーズに柔軟に対応できるように、段階的に実施していきます。  
 なお、本事業スケジュールは、社会情勢の変化などにより変更する場合があります。

		運用開始時期			
		第1フェーズ R10年度まで	第2フェーズ R11~15年度	第3フェーズ R16~R20年度	
ハード整備	西側	道の駅	→		
	遊歩道(雁木づくり)	→			
	健診施設	→			
	新井PAとの連携	→	→	→	
	東側	調整池(ドッグラン)	→		
	防災施設整備用地	→			
	災害時初動対応スペース(平時:スポーツ・宿泊・RV)	→			
ハウス栽培施設・バイオマス発電施設	→				
ソフト整備	道の駅や地域活動への参画ニーズへの対応・相談窓口の設置	→	→	→ 継続実施	
	障がいのある方々との連携(農福連携(イベント開催など))	→	→	→ 継続実施	
	販路の確保・拡大のための取り組み(eコマース、ふるさと納税、定期イベントの開催など)	→	→	→ 継続実施	
	商品開発(お惣菜、食事メニューなど)及び、販売促進イベントの開催	→	→	→ 継続実施	
	地域内周遊にも活用できる交通手段の確保(デマンドタクシー活用など)	→	→	→ 自動運転の導入	
	ヘルスツーリズム	→	→	→ 継続実施	
	隣接民間施設との連携	→	→	→ 継続実施	

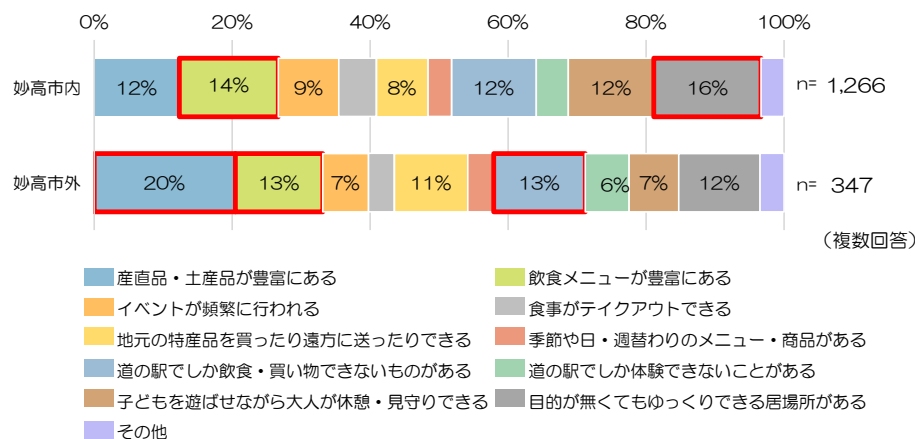
# (参考1)市民アンケート調査結果概要(抜粋)

## <妙高市 市民アンケート>

- 調査方法:紙とWEBの併用(紙の調査票は道の駅と市役所に設置、WEB回答フォームのアクセスコードはLINE、Instagram、HP、道の駅、市役所に掲載)
- 調査期間:2025. 7/30~8/31
- 回収票数:計607票(紙43票、WEB558票)
- 回答者属性「男性38%、女性60%、その他2%」、「市内居住者78%、市外居住者22%」

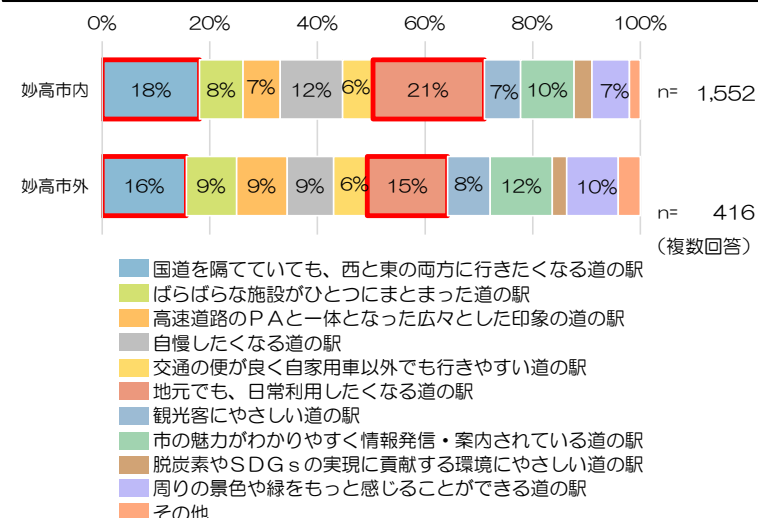
### Q 新しい道の駅「あらい」に何があれば、魅力を感じて何度も訪れたいと思いますか？

- 市内居住者は、目的が無くてもゆっくり過ごせる居場所と**飲食メニューの豊富さ**を重視
- 市外居住者は、**産直品・土産品・飲食メニューの豊富さ**や**独自性・希少性**を重視



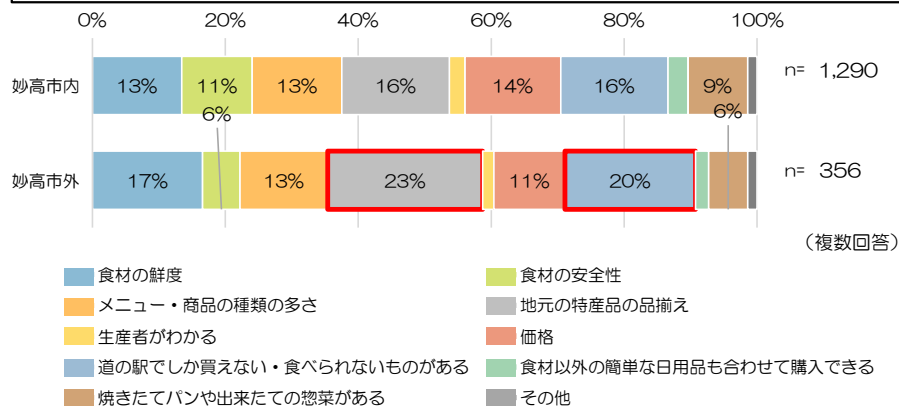
### Q 新しい道の駅「あらい」がどのような道の駅になってほしいですか？

- 地元で**日常利用される**道の駅となることを、市内だけでなく市外居住者も期待
- 国道を隔てても**東西の両方に行きたくなる**ことを市内外居住者が期待



### Q 新しい道の駅「あらい」で飲食や物品購入をするときに、何が重要だと思いますか？

- 飲食・物販は、**地元特産品の品ぞろえ、物販・飲食メニューの希少性、食材の鮮度**を重視
- 市外居住者は特に、**地元特産品の品ぞろえ、道の駅でしか得られない希少性**を重視



### 期待するイメージに関するその他の自由意見

- ・公園のように**気軽に訪れて、軽い食事**をしたり、**1日のんびり過ごせる**場所
- ・他県の人新潟を調べたときに、**おすすめスポット**とされる道の駅
- ・きれいなトイレと美味しい食事、地元のお土産がいつでも得られる場所
- ・雪国でも、**冬も夏も利用できる**場所
- ・何度行っても**飽きない**、いつも**ワクワク感**のある道の駅
- ・歩いて**回遊**したくなる道の駅
- ・地域の**玄関口**として、地域の個性が際立つ道の駅
- ・市内の若い世代や市外の方に興味を持って地域の良さを知ってもらえる**「地元感」**が感じられる場所
- ・施設が分かれていても、デザインや世界観に**一体感**のある道の駅
- ・**妙高や上越地域全体に効果**が波及する道の駅 等

# (参考2)民間事業者アンケート調査結果概要(抜粋)

## <妙高市 民間事業者アンケート>

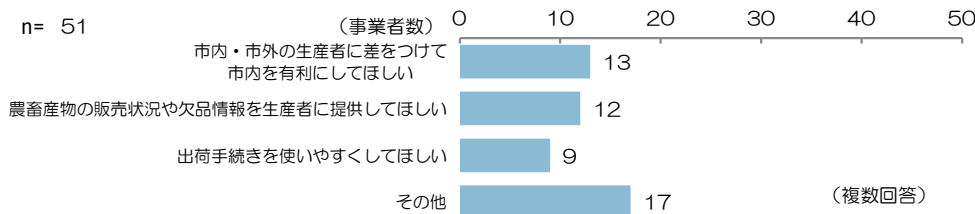
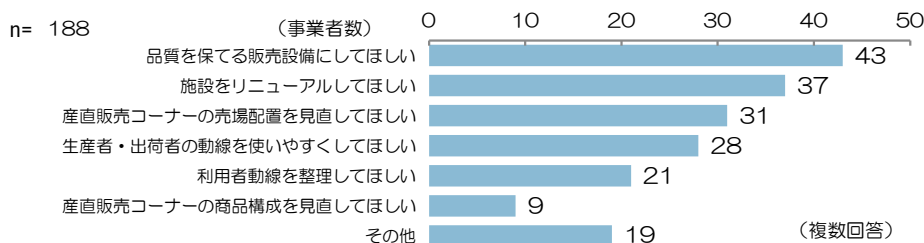
### 農業

調査方法: ひだなんから紙の調査票を出荷登録者に配布  
 農業 調査期間: 2025. 8/1~8/15  
 回収票数: 計62票(380票配布)

調査方法: 新井商工会議所からWEB回答の依頼状を配布  
 商業 調査期間: 2025. 8/1~8/19  
 回収票数: 計14票(700票配布)

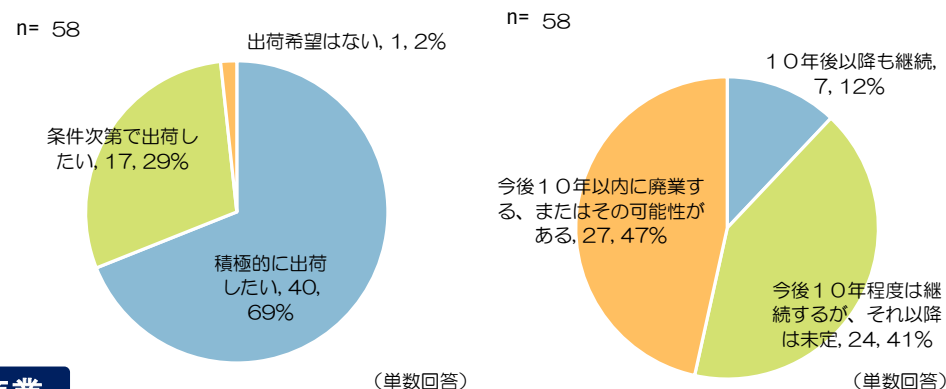
### Q 道の駅「あらい」への出荷経験を踏まえ、改善を希望すること

- 施設では、品質を保てる販売設備と作業・売場スペースの拡大を含む施設のリニューアル、見やすく買いたくなる直売所の配置見直しを要望(その他セキュリティ対策、レシピPR、集荷支援、清潔感・明るさの維持など)
- 運営方法・システムでは、市内生産者の有利性、欠品情報の即時提供を要望



### Q 新しい道の駅「あらい」への出荷意向、将来的な営農の継続意向

- 出荷意向のある事業者は69%である一方、およそ10年以内に廃業する可能性のある事業者が47%



### 商業

### Q 新しい道の駅「あらい」の商品開発に関する意見・提案

#### ■市民ニーズと農産物等の素材を踏まえた商品開発のアイデア

##### ①和洋菓子・氷菓・パン

かんずりチョコソフトクリーム  
 ハーブで香りづけしたソフトクリーム など



##### ②惣菜・軽食・テイクアウト品

かんずり揚げ団子  
 妙高産米を使い、農産物等を具に混ぜたおにぎり  
 ハーブティー など



##### ③妙高らしい独自の加工品

健康食品(ライスプロテイン、もぐさ灸) など



##### ④リニューアル記念オリジナル商品

妙高市の酒造共同オリジナルラベル日本酒 など

#### ■協力にあたっての課題

○人員不足、加工場の確保、地元事業者同士のマッチング機会の確保、運営方針の情報共有

### Q 現状の生産品目別事業者数

- 冬季の出荷事業者、品目が少ない
- 春は山菜、夏は野菜、秋は野菜と米、冬は加工品と季節により主軸の品目が変化

